

埼玉県教育委員会教育長賞

所沢市立中央中学校 三年 藤平 心和

学べる幸せ

ひいおばあちゃんのことを思い出した。大正生まれで、生きていれば百歳近くになる。

元気だった頃、施設に会いに行くと、必ずお小遣いと赤い缶に入ったチョコレートをくれて、その後、施設での生活や、昔の話をたくさんしてくれた。いつも同じ話ではなく、いろいろな時代のいろいろなエピソードを、聞いている私たちが思い描けるように生き生きと語った。

私は、「何て物知りで、賢いひいおばあちゃんなんだろう」と、いつも感心していた。

そんなひいおばあちゃんが、学校教育をほとんど受けておらず、小学校さえ満足に通えなかったと知り、本当に驚いた。

ひいおばあちゃんは、好奇心旺盛で、チャレンジ精神が豊か、そして頭が良く、とにかく勉強が大好きだった。しかし、当時は、義務教育制度はあったものの、授業料や教科書代、施設維持費は国民が負担するものだった。そのため、ひいおばあちゃんを含め、一般庶民の子どもたちは、十分に学校教育を受けられないことが珍しくなかった。

そんな中、ひいおばあちゃんは、家事の合間をぬって、学校に向かい、窓の外から熱心に授業を聞いていた。当然、教科書もノートも持っていないため、ひたすら地面の土に書き、内容を暗記するという方法で、知識を増やしていったのだ。

大人になり、比較的自由に学べる時代になった時、ひいおばあちゃんは寝る間も惜しんで本を読み、学ぶことを楽しんでいた。そしてクイズ大会で優勝したり、短歌を教える先生になったりしていた。年老いて施設で生活している時も、いつもノートをそばに置き、記憶したいこと、感じたことを書きとめていた。最後まで学びを大切にし、学べることへの感謝を忘れなかった。

教育に多くの費用がかかるのは、昔も今も同じだ。しかし、現代ではその大部分が税金でまかなわれている。学校で使う教科書や机、いすの購入、校舎の建築や修理費に、年間一千億円を優に超える税金が使われているのだ。

そのおかげで私たちは、教育を無償で受け、カラフルで丈夫な教科書が提供されている。そして、エアコンの効いた快適な部屋で、多くの仲間と共に教育を受けることができている。

それなのに私は、時々、いや、かなりの頻度で、「面倒だから学校に行きたくない。」とか、「こんなこと覚えて何の役に立つのか。」などと不満を吐き出し、丈夫なはずの教科書があつという間にボロボロになるような乱暴な扱いをしていた。今、そのことをとても恥ずかしく感じる。

今回、教育と税について考え、今自分が得ている恩恵を当たり前と見なさず、感謝し、一生懸命学び続けていこうと心を新たにされた。